

「二〇〇九年度卒業論文題目」

浅井麻里湖「倭藤太百足退治伝説の成立について」

池永悠人「大和三道の諸機能」

伊藤綾香「鎌倉期における女性―乳母の存在と役割―」

江草由梨「山陽道駅家の機能に関する一考察」

大川健久「鈴鹿関の防御機能に関する一考察」

小椋郁美「江戸人のばけもの概念―『画図百鬼夜行』をとおして―」

金子知世「中世の伊勢神宮における怪異―仮殿遷宮との関係から―」

木谷僚「室町時代のくじについて」

新谷友香理「『物語』から考える認識の時代的変遷」

早川侑美香「物語と結びつく雷神―大和国式内社を例に―」

松本薫「7～9世紀における伊豆地域の火葬―大北横穴群出土石櫃の考察から―」

山本優子「纏向遺跡と東海の力関係の変化について―伊勢湾系土器の分布から―」

弓谷浩輔「戦国大名毛利氏の感状についての考察」

「二〇〇九年度修士論文題目」

吉田奈稚子「中世の葬送と供養観の展開」

【編集後記】

『三重大史学』第一〇号をお届けいたします。編集担当者が二〇〇九年一〇月に着任したばかりですが、周囲の先生方の御助力により、節目となる一〇号を完成させることができました。

今回は一〇号記念ということので、考古学・日本史・東洋史の教員がそれぞれ論文を出すということになりました。

考古学・日本史研究室は在所帯のようですが、東洋史研究室には今後、どの程度

の学生が来るものか、よくわかりません。中国古史などは、史料が漢文ばかりで、新出史料として研究者同士では話題になる木簡・竹簡の類も、内容はともかく見た目は地味なこと（薄汚れた使用済み割箸、といえはよいか）この上ないためか、三国志演義を代表とするフィクションでイメージを膨らませた学生にとっては、虚構と現実の落差に失望する者もいるようです。何とかそのあたりは工夫せねばならないのですが、昨今、中国古史に限らず、東洋史学を学んでみようという学生自体が減っているという話もよく耳にします。その原因は色々あると思うのですが、それこそ三国志演義の軍師が献策するような、全てを一瞬で解決する妙策などあるはずありません。このような雑誌などを通じて、地道に東洋史学の重要性や問題点を発信して、東洋史学や歴史学全体への理解につなげていきたいと思います。

（高村）

三重大史学 第一〇号

二〇一〇年三月三十一日発行

編集・発行 三重大学文学部考古学・日本史学・東洋史学研究室

〒五一四―八五〇七

三重県津市栗真町屋町一五七七

TEL: 〇五九―三三―二二二（代表）

FAX: 〇五九―三三―九一九九（共同）

MAIL (山田雄司): yyanada@human.mie-u.ac.jp

印刷 伊藤印刷株式会社（津市大門三―二三）